

# 京都観世会所蔵「浅野太左衛門家門人帳」

## 解題と翻刻

大谷 節子

### 【解題】

謡を専業とした家であった浅野太左衛門家伝来の能楽資料（京都観世会浅野文庫）についてまとめた『謡の家の軌跡 浅野太左衛門家基礎資料集成』（二〇二二年三月、和泉書院刊）刊行後、旧蔵者の浅野篤義氏より、御尊父（匡宣）の遺品から起請文六巻が見つかったとの知らせを受けた。浅野太左衛門家十代栄輝による蔵書目録『栄輝改正目録』<sup>①</sup>に「誓約巻物」とあり、少なくとも栄輝の代までは浅野家に伝えられていたことは推測されたが、二〇一五年に浅野家より京都観世会に寄贈された資料一括に含まれておらず、現存が確認できなかった「門

人帳」発見の報であった。これまで浅野家の門人記録としては八代栄足筆の『他郷誼盟順名簿』<sup>②</sup>が知られるのみであったが、井上次郎右衛門家<sup>③</sup>、藺久兵衛家に同じく、冒頭に起請文を記した「門人帳」が浅野家においても作成されていたことが、新出の大小六巻によって確認された。各巻に巻数は記されていないが、小稿では年代順に第一巻〜第六巻と仮称し、以下、この順に書誌を記す。

第一巻は、白地に青色唐草模様表紙。見返し、銀箔散らし。紙高二四・三糎。表紙二五・四糎。本紙全長七四八・九糎。天地に押罫を引く。起請文前書に続き、寛延三（一七五〇）年十一月二十九日から安永八（一七七九）年三月六日まで百二名の起請文誓約日と氏名、花押が記されており、四代栄貞から六代栄充までの門人帳に該当する。この巻の宝暦九（一七五九）年の箇所に太左衛門に並記される十歳は、五代栄長の太左衛門襲名前名である。五代栄長は、四代栄貞が他界した二年後の宝暦十三年八月に三十七歳で急逝する。この時、後に六代太左衛門を継ぐ栄充は未だ十二歳（満十歳）であり、暫くは幾四郎を名乗り、明和七（一七七〇）年二月までに太左衛門を襲名したことも、この門人帳から知ることができる。なお、宝暦四甲戌年八月十二日入門の浅野清左衛門近良は、浅野太左衛門家の分家、清左衛門家の四代である。

第二巻は、黄朽葉色無地絹表紙。見返し、鳥の子紙に金霞、切箔散らし。紙高二四・二糎。表紙二四・八糎。本紙全長一五六〇・一糎。天地に押罫を引く。第一巻に続く安永八年五月十九日から明治十九年一月十七日までの二百六十二名を列記する。安永八年五月時の太左衛門は六代栄充。七代目を継いだ中利助の時代と、九代没後に一時浅野家を預かった岩成茂兵衛の時代を除く、六代から十代までの誓約者が名を連ねる（但し、十代栄輝の代は、襲名以前）。天明二壬寅（一七八二）年正月九日に誓紙を記している佐々木惣四郎春行は、京都の書肆

佐々木竹苞楼主人。

第三卷は無表紙。裏端に「斯曲□□(□□は虫損)」の墨書。紙高二四・一糎。全長四七四・七糎。天地に押罫を引く。七代を継いだ中利助の代、明和六年十一月六日から天明七年十月二十七日までの誓約者六十八名を列記する。

第四卷は、紺地金色縞模様布表紙。紙高一九・五糎。表紙一六・四糎。本紙全長三八五・五糎。岩成茂兵衛宛の明治二年から六年までの誓約者五十八名を列記する。岩成茂兵衛(繁之助)は、九代栄應没後に後継となった栄應甥の清次郎(後の栄輝)が「退家」した間、浅野家の後見役を務めた人物で、後に浅野姓を名乗っている。

第五卷は、無表紙。紙高二〇・八糎。全長三二五・一糎。天地に金色野線を引く。十代栄輝(常次郎)の代の明治十八年十二月から同三十五年十月までの四十七名を列記する。冒頭の起請文は浅野常次郎宛。明治二十年十一月一日よりは通り名を襲名して浅野太左衛門宛となっている。

第六卷は、蓬色地に金牡丹唐草文様緞子表紙。金色題簽に外題墨書「誓約巻 第貳」。内題「芳名録」。見返し、金色地布目模様。紙高二一・二糎。表紙一九・六糎。本紙全長五〇二・八糎。第十一代浅野匡宣の代の、昭和二十一年四月から三十六名の氏名と滋賀貨物運搬会社中ほかの企業名が列記される。外題に「第貳」とあるが、一巻目は残っていない。なお、この巻に初めて女性の名が加わる。

以上の六卷には、寛延三年から昭和二十一年までの門人、計五百七十三名(匡宣の巻は企業名を除く)の氏名と入門年月日が記されている。第一、二、三、五巻は巻頭に「起請文前書之事」、第四巻は巻頭に「誓神文」を置く。前述のように四巻は岩成茂兵衛が浅野家を預かっていた時期のものであり、岩成氏は自分に入門誓詞を出

した門人を第二巻に書き加えることなく、別巻に仕立て、誓詞の文言も敢えて浅野家代々のものにより若干簡略なものに変えたものである。第六巻は冒頭に「芳名録」とあり、橘園社への「入社」者名簿になっている。末尾には匡宣が大正二年に豹齋名で社中の会橋枝社への「入盟」を呼び掛けた文章が「添書」として記されている。

浅野太左衛門家の寛延三年以前の門人帳は残っていないが、これ以前も地方に門人を抱えていたことは、美濃加治田で代々酒造業（文之字屋<sup>ぶんのじや</sup>）を営んでいた平井家の九代当主平井甚兵衛冬秀（一七二七—一七八三）手沢の謡本箱の底書から知られる。<sup>⑤</sup>これによれば、冬秀の祖父吉音（一六六八—一七四三）と父平井冬音（一六九四—一七三七）の謡の師は浅野太左衛門の門人であり、その時期が寛延三年を数十年は遡る。

### 【翻刻】

#### 〔凡例〕

- 一、旧字体、異体字は通行の字体に改めることを原則とした。
- 一、虫損、破損、花押との重なり等の難読箇所は□で表した。
- 一、判読の便のため、適宜句読点を補った。
- 一、私に補った注記は丸括弧（ ）に入れた。

〔第一卷〕

起請文前書之事

一 御謚御相伝忝奉存候。御秘伝之儀者不及申、借用仕候御本并写共親子兄弟ニ至迄他見仕間敷候。自然執心之輩有之候者、如此誓紙之一札を為仕候上、口伝本貸シ可申候。尤板行仕間敷候事。

一 ケ様之上者他之師取不申、諸事御指図次第ニ仕、御為ニ成候事共毛頭疎意仕間敷候。勿論我流立申間敷候事。

一 伝授仕候拍子方其外相伝仕候習事共、尤起請文之一札無之候而者伝授仕間敷候。若相統之者無之時者、右直シ申候本ニ我等封を付ケ其許江預ケ置可申事。

右三ヶ条於違背者日本六十余州大小神祇我等宗体并氏之神可蒙御罪者也。仍神文如件。

淺野太左衛門様

寛延三庚午年十一月廿九日	川畑伝吉	貞富(花押)
寛延三庚午年十一月廿九日	山脇勝三良	勝茂(花押)
宝暦元辛未年十二月十五日	柴山喜平	貴林(花押)
宝暦貳壬申年十一月四日	蘭三右衛門	義敬(花押)
宝暦貳壬申年十一月四日	大坂 松田太郎	光信(花押)
宝暦二壬申年十一月四日	丹州 藤井源助	惟一(花押)
宝暦二壬申年十一月四日	大倉佐助	宗雄(花押)

宝曆二壬申年十一月四日	中路与兵衛	英影(花押)
宝曆三癸酉年十月廿三日	大坂 奥村庄次郎	知愛(花押)
宝曆四甲戌年八月十二日	大坂 浅野清左衛門	近良(花押)
宝曆四甲戌年八月十二日	山田太兵衛	宗(花押)
宝曆四甲戌年八月十二日	富永勘兵衛	貞躬(花押)
宝曆四甲戌年八月十二日	安田理右衛門	式乘(花押)
宝曆四甲戌年十二月朔日	無住軒自笑	洞誉(花押)
宝曆四甲戌年十二月十七日	泉正藏	貞英(花押)
宝曆四甲戌年十二月十七日	人見重次郎	秀頼(花押)
宝曆四甲戌年十二月十七日	中務勘助	賀成(花押)
宝曆五乙亥年十月七日	塩瀬九郎三郎	順信(花押)
宝曆五乙亥年十月七日	谷喜重郎	義明(花押)
宝曆五乙亥年十月七日	酒井元助	富矩(花押)
宝曆五乙亥年十月七日	荒川幸六	亮長(花押)
宝曆七丁丑年十月十八日	水田丈之助	重栄(花押)
宝曆七丁丑年十月十八日	金丸忠五郎	柔遠(花押)
宝曆七丁丑年十月十八日	好田庄兵衛	安信(花押)

京都観世会所藏「浅野太左衛門家人帳」解題と翻刻

宝曆七丁丑年十月十八日 濃州岐阜住 鬼玉清藏 稟普〔花押〕

宝曆七丁丑年十月十八日 藤井満藏 並正〔花押〕

宝曆八戊寅年八月十九日 竹田紋祐 重利〔花押〕

宝曆八戊寅年十月廿七日 平嶋幸助 茂治〔花押〕

宝曆九己卯年八月朔日 小門安次郎 政豊〔花押〕

宝曆九己卯年八月朔日 井上四郎三郎 道忠〔花押〕

宝曆九己卯年八月朔日 佐々木孫三郎 重〔花押〕

浅野十藏様

浅野太左衛門様

宝曆十一辛巳年三月廿九日 讚州観音寺 本宮多仲 信之〔花押〕

宝曆十一辛巳年三月廿九日 丹州柏原 辻平太夫 正治〔花押〕

宝曆十一辛巳七月廿一日 江州日野 中井清次右衛門 久豊〔花押〕

宝曆十二壬午六月廿七日 武田武兵衛

宝曆十二壬午六月廿七日 青田喜兵衛 陳香〔花押〕

宝曆十二壬午六月廿七日 西村新助 重行〔花押〕

宝曆十二壬午六月廿七日 西村庄三郎

宝曆十二壬午六月廿七日

山田半右衛門

昌勝(花押)

宝曆十二壬午六月廿七日

三上升元

忠克(花押)

明和二乙酉年六月廿四日

讚州觀音寺

本宮佐内

信義(花押)

浅野幾四郎様

明和二乙酉年九月廿四日

伏見住

大塚市兵衛

重保(花押)

明和二乙酉年十一月朔日

撰州富田

清水市郎右衛門

利光(花押)

明和二乙酉年十一月七日

桂藤四郎

重光(花押)

明和二乙酉年十一月七日

渡辺権右衛門

畝平(花押)

明和三丙戌年十月十日

結城主計

秀延(花押)

浅野太左衛門様

明和七庚寅年二月三日

国松九兵衛

重舊(花押)

明和七庚寅年九月十五日

川上源右衛門

宗建(花押)

明和七庚寅年九月十五日

饗庭伊右衛門

政盈(花押)

明和七庚寅年九月十五日

中利三郎

廣明(花押)

明和七庚寅年九月十五日

村井義兵衛

長歸(花押)

京都観世会所藏「浅野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

明和八辛卯年四月十三日		松本伊平治	直克(花押)
明和八辛卯年四月十三日	摂州大坂住	神田平兵衛	单義(花押)
明和八辛卯年六月八日		村田庄三郎	栄(花押)
明和八辛卯年六月八日		山田太兵衛	宗賢(花押)
明和八辛卯年六月八日		安田惣右衛門	基(花押)
明和八辛卯年六月八日		辻小市郎	豊正(花押)
明和八辛卯年六月八日		川崎宗兵衛	英信(花押)
明和八辛卯年六月八日		廣田伊兵衛	景□(花押)
明和八辛卯年六月八日		池田庄兵衛	直軌(花押)
明和八辛卯年六月八日		小森十兵衛	致知(花押)
明和八辛卯年六月八日		富永清助	貞吉(花押)
明和八辛卯年十二月四日		谷喜兵衛	好幸(花押)
明和八辛卯年十二月四日		吉川專治郎	(花押)
明和九壬辰年六月廿三日		喜多川孫兵衛	恭宣(花押)
安永二癸巳年四月五日		北村伊之介	輝孝(花押)
安永二癸巳年四月五日		脇坂十五郎	為次(花押)
安永二癸巳年四月五日	上州宮崎	鈴木源右衛門	信安(花押)

安永二癸巳年四月五日			那波甚藏	忠義(花押)
安永三甲午年三月廿九日	摂州大坂住	奥村卯八	蔭親	(花押)
安永三甲午年九月十一日	高槻	岡田嘉右衛門	恭貞	(花押)
安永三甲午年九月十一日		芝原定七	定助	(花押)
安永四乙未正月十六日		石田太左衛門	祚胤	(花押)
安永五丙申十月二日		河野官治郎	重達	(花押)
安永五丙申十月二日		中井榮治	貞則	(花押)
安永六丁酉八月十八日		矢野岩次郎	德行	(花押)
安永六丁酉八月十八日		馬松禎作	則茂	(花押)
安永六丁酉八月十八日		片山長兵衛	重寿	(花押)
安永六丁酉十二月十六日		大橋勘十郎	泰孝	(花押)
安永六丁酉十二月十六日		高橋理左衛門	正幸	(花押)
安永六丁酉十二月十六日		檜垣清兵衛	定霽	(花押)
安永六丁酉十二月十六日		吉田多四郎	安氏	(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	伏見住	彈又兵衛	長徑	(花押)
安永七戊戌年六月廿七日		下村六兵衛	春房	(花押)
安永七戊戌年六月廿七日		服部金助	教迢	(花押)

京都観世会所藏「浅野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

安永七戊戌年六月廿七日	服部善右衛門	重矩(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	今井甚兵衛	重春(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	山本伊兵次	
安永七戊戌年六月廿七日	岡田宗兵衛	驚光(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	服部治郎助	教貞(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	中邑喜兵衛	宣安(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	長谷川源兵衛	重則(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	川西源兵衛	定英(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	内山清兵衛	忠務(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	服部喜十郎	定保(花押)
安永七戊戌年六月廿七日	渡辺午之助	
安永七戊戌年六月廿七日	中條岩三郎	伴卿(花押)
安永八巳亥年二月八日	橋本利兵衛	秀忠(花押)
安永八巳亥年二月八日	巽小兵衛	義澄(花押)
安永八巳亥年三月六日	長瀬治兵衛	常武(花押)
安永八巳亥年三月六日	高橋又吉	寛茂(花押)

伏見住

〔第二卷〕

起請文前書之事

一 御謚御相伝忝奉存候。御秘伝之儀者不及申、借用仕候御本并写共親子兄弟ニ至迄他見仕間敷候。自然執心之輩有之者、如此誓紙之一札之為仕候上、口伝本貸シ可申候。尤板行仕間敷候事。

一 ケ様之上者、他之師取不申、諸事御指図次第ニ仕、御為ニ成候事共毛頭疎意仕間敷候。勿論我流立申間敷候事。

一 伝授仕候拍子方其外相伝仕候習事共、尤起請文之一札無之候而者伝授仕間敷候。若相統之者無之時者、右直シ申本ニ我等封ヲ付其許江預置可申事。

右之三ヶ条於違背者、日本六十余州大小神祇我等宗体并氏之神可蒙御討者也。依而神文如件。

浅野太左衛門様

安永八己亥年五月十九日	小島清兵衛	房春(花押)
安永八己亥年五月十九日	元江八郎右衛門	房(花押)
安永八己亥年五月十九日	吉田太蔵	安秀(花押)
安永八己亥年五月十九日	金勝忠五郎	尋遠(花押)
安永八己亥年五月十九日	巽与三五郎	治(花押)
安永九庚子年六月八日	岩崎彦左衛門	千一(花押)

京都觀世会所藏「淺野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

安永十辛丑年二月十六日	小林与八郎	泰統(花押)
安永十辛丑年二月十六日	松嶋新助	
安永十辛丑年二月十六日	山本常三郎	義之(花押)
安永十辛丑年二月十六日	佐々木彦兵衛	
安永十辛丑年二月十六日	西村金吾	叙輝(花押)
天明二壬寅年正月九日	田中治右衛門	重利(花押)
天明二壬寅年正月九日	大崎伊助	
天明二壬寅年正月九日	世繼三之助	直員(花押)
天明二壬寅年正月九日	佐々木惣四郎	春行(花押)
天明二壬寅年正月九日	田中儀兵衛	正博(花押)
天明二壬寅年三月五日	武田藤助	武信(花押)
天明四甲辰年四月十四日	小寺彦四郎	展臣(花押)
天明五乙巳年正月廿八日	松井久兵衛	唯廷(花押)
天明五乙巳年八月十一日	荻田次兵衛	永豊(花押)
天明五乙巳年十二月十二日	森新七	義秀(花押)
天明六丙午年四月六日	中東治右衛門	邦祝(花押)
天明六丙午年閏十月廿七日	高橋宇兵衛	和(花押)

城州淀住

天明六丙午年閏十月廿七日

山田伝右衛門

久敬(花押)

天明七丁未年二月九日

天野吉右衛門

宗保(花押)

天明七丁未二月九日

天野直吉

宗明(花押)

浅野太左衛門様

浅野常次郎様

寛政元己酉歳六月三日

中村藤助

雅知(花押)

寛政元年己酉六月三日

木下定吉

義智(花押)

寛政元年己酉六月三日

佐原礒五良

為径(花押)

寛政元歳己酉六月三日

小川多右衛門

方房(花押)

寛政元己酉年八月十五日

城州伏見住

田守次郎助

宣宜(花押)

寛政元己酉年八月十五日

城州伏見住

弾又三郎

長埵(花押)

寛政二庚戌年十一月六日

谷喜兵衛

荣延(花押)

寛政二庚戌年十一月六日

山田太治郎

寛政二庚戌年十一月六日

小森重三郎

寛政二庚戌歳十一月六日

竹内徳三郎

政友(花押)

寛政二庚戌年十一月六日

岸野弥三郎

京都親世会所藏「浅野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

寛政三辛亥年十一月廿五日			安井亀五郎	好孝(花押)
寛政四壬子年二月廿一日	摂州大坂住		上田六兵衛	伊興(花押)
寛政四壬子年三月廿八日			池田与兵衛	
寛政四壬子年四月廿二日			中野武助	永栄(花押)
寛政四壬子年四月廿二日			好田庄次郎	寂信(花押)
寛政四壬子年四月廿二日			吉田新十郎	子益(花押)
寛政四壬子年四月廿二日			山田太三郎	
寛政四壬子年十一月八日			佐々木源蔵	由(花押)
寛政六甲寅年閏霜月七日	城州淀住		本多武兵衛	貞知(花押)
寛政七乙卯年十月十五日	城州伏見住		中東治助	貞長(花押)
寛政七乙卯年十月十五日	城州伏見住		小嶋左膳	定信(花押)
寛政七乙卯年十月十五日	城州伏見住		下村文蔵	兼豪(花押)
寛政七乙卯年十月十五日	城州伏見住		上田喜蔵	親綱(花押)
寛政七乙卯年十月十五日	城州伏見住		田守宗八	尊明(花押)
寛政七乙卯年十一月十五日			松村忠兵衛	
寛政七乙卯年十一月十五日			服部安之助	信順(花押)
寛政七乙卯年十一月十五日			八田利兵衛	

寬政七乙卯年十一月十五日		荒木忠七	道堅(花押)
寬政七乙卯年十一月十五日		大倉甚助	義定(花押)
寬政九丁巳年九月十二日		河井伊三郎	賢充(花押)
寬政九丁巳年九月十四日	城州伏見住	綴喜源三郎	宗明(花押)
寬政九丁巳年九月廿五日		大倉佐兵衛	與昌(花押)
寬政九丁巳年九月廿五日		伊吹源兵衛	明政(花押)
寬政九丁巳年九月廿五日		川本幸之助	保常(花押)
寬政九丁巳年九月廿五日		奧村六十郎	
寬政九丁巳年九月廿五日		東山孫兵衛	
寬政十一己未年四月三日	城州伏見住	中村岩藏	
寬政十一己未年四月三日	城州伏見住	林彥作	之靜(花押)
寬政十一己未年四月三日	城州伏見住	岡本善吉	榮寿(花押)
寬政十一己未年十月十九日		小林源八	利寿(花押)
寬政十二庚申十二月十五日		大塚九兵衛	定賢(花押)
寬政十三辛酉年三月廿一日	城州伏見住	綾木六右衛門	一當(花押)
享和二年壬戌十二月五日		北村長兵衛	輝章(花押)
享和二年壬戌十二月五日		安田惣治良	一定(花押)

京都観世会所藏「浅野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

享和二年壬戌十二月五日

河原利兵衛

知熙(花押)

享和二年壬戌十二月五日

野村伊兵衛

泰豊(花押)

享和二年壬戌十二月五日

大野幸治郎

享和三年癸亥十一月十六日

石津文藏

文義(花押)

享和三年癸亥十一月十六日

十倉徳兵衛

利長(花押)

享和三年癸亥十一月十六日

平田重治郎

忠直(花押)

文化元年甲子十二月二日

山田貞之助

治以(花押)

浅野太左衛門様

文化三年丙寅十一月廿五日

津田喜兵衛

義高(花押)

文化三歳丙寅十一月廿五日

那寿野嘉兵衛

晁為(花押)

文化三歳丙寅十一月廿五日

長瀬治郎吉

常正(花押)

文化三年丙寅十一月廿五日

田中利三郎

文化三年丙寅十二月十六日

世継江太郎

直方(花押)

文化五戊辰年六月五日

上河次介

宗精(花押)

文化五戊辰年六月五日

上河直治

宗珉(花押)

文化六己巳年十二月二日

萩田次兵衛

永世(花押)

文化六己巳年十二月二日	藤河源兵衛	為貞 (花押)
文化六己巳年十二月二日	外村亦市郎	教光 (花押)
文化八辛未年閏二月廿日	福地新藏	光廣 (花押)
文化八辛未歲閏二月廿日	吉岡新助	
文化八年辛未十一月十四日	伊藤治兵衛	
文化十年癸酉八月九日	木下藤助	為張 (花押)
文化十一年甲戌二月廿日	安井嘉治良	惠迪 (花押)
文化十二年乙亥正月十六日	蘭田一兵衛	賀壽 (花押)
文化十二年乙亥正月十六日	片山正太郎	正義 (花押)
文化十二年乙亥正月十六日	川添善藏	清知 (花押)
文化十二年乙亥	服部安之助	宜孝
文化十二年乙亥四月十四日	川村清五郎	良敬 (花押)
文化十二年乙亥四月十四日	立入喜多造	清辰 (花押)
文化十二年乙亥四月十四日	池田龜之助	
文化十三年丙子六月二日	椰邑七兵衛	
文化十三年丙子六月二日	佐野勝治良	祇董
文化十三年丙子六月二日	蘇寬造	良重 (花押)

京都親世会所藏「浅野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

文化十五年戊寅正月九日	城州淀住	中東龍助	
文政貳己卯年正月十三日	淀住	中東治太郎	具善(花押)
文政三年庚辰二月三日		松宮平兵衛	秀和(花押)
文政三年庚辰二月三日		矢部重次郎	成(花押)
文政三年庚辰二月三日		後藤十藏	祐之(花押) 後
文政三年庚辰二月三日		久木儀右衛門	宣賢(花押) 前
文政三年庚辰三月廿八日		小谷寿満之丞	英宮(花押)
文政三年庚辰三月		楠本茂祐	正次(花押)
文政三年庚辰三月		橋本利三郎	幾利(花押)
文政三年庚辰三月		田原小三郎	元渡(花押)
文政三年庚辰三月		綾木亦兵衛	邦孝(花押)
文政四年巳二月九日		永松長治郎	
文政五年壬午二月十九日		藤井丑之助	清兼(花押)
文政六年癸未正月		石田次兵衛	次告(花押)
文政六年癸未正月		岩井矢四郎	行一(花押)
文政六年癸未正月		巽龜三郎	公孝(花押)
文政六年癸未二月七日		草木喜之助	為信(花押)

文政七年甲申十二月九日	山田貞治郎	
文政七年甲申十二月九日	山中政之助	
文政七年甲申十二月九日	別所萬兵衛	
文政九丙戌二月	奥野清七	元恭 (花押)
文政九年丙戌二月	那須嘉助	貞易 (花押)
文政九年丙戌二月	林栄次良	正友 (花押)
文政九年丙戌二月	薬師川彦三郎	俱知 (花押)
文政九年丙戌二月	森亀三郎	紀隆 (花押)
文政九年丙戌五月廿六日	西村平兵衛	友貞 (花押)
文政九年丙戌五月廿六日	三上平次良	昌儀 (花押)
文政九年丙戌五月廿六日	河北弥七郎	義勝 (花押)
文政九年丙戌五月廿六日	上田萬次郎	言真 (花押)
文政九年丙戌五月廿六日	楠本弥三郎	正信 (花押)
文政九年丙戌五月廿六日	桜井文二郎	美保 (花押)
文政九年丙戌五月廿六日	巽太三郎	孝之 (花押)
文政十年丁亥十二月八日	世繼猶三郎	直泰 (花押)
文政十年丁亥十二月八日	宮西一右衛門	吉武 (花押)

京都親世会所藏「浅野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

文政十年丁亥十二月八日	北村長兵衛	輝久(花押)
文政十年丁亥十二月八日	巨智部吉三郎	忠陽(花押)
文政十二年己丑十一月	菅谷利助	実邦(花押)
文政十二年己丑十一月	幡與十郎	義次(花押)
文政十三年 <sup>(マ)</sup> 戊寅二月	上原善兵衛	房常(花押)
文政十三年 <sup>(マ)</sup> 戊寅二月	半井半次郎	美武(花押)
文政十三年 <sup>(マ)</sup> 戊寅二月	清水弥三郎	
文政十三年 <sup>(マ)</sup> 戊寅二月	平尾熊次郎	
天保二年辛卯三月	森河吉右衛門	久矩(花押)
天保二年辛卯三月	奥田伊助	
天保三年壬辰二月	高橋清治郎	
嘉永元年戊申十一月朔日	福本辰之助	
嘉永元年戊申十一月朔日	中村為次郎	長延(花押)
嘉永元年戊申十一月朔日	寺田新太郎	春永(花押)
嘉永元年戊申十一月朔日	古河駒太郎	古光(花押)
嘉永二年己酉二月十五日	浅田宇之助	肃成(花押)
嘉永二年己酉二月十六日	富田小三郎	正教(花押)

嘉永二歳己酉二月十六日	岸下本三郎	芳春 (花押)
嘉永二歳己酉二月十六日	早川太七	
嘉永二歳己酉二月十六日	原田松應	良則 (花押)
嘉永二年己酉二月十六日	磯川孝三郎	
嘉永四年辛亥正月廿九日	津田喜太郎	政方 (花押)
嘉永四年辛亥九月廿七日	森川吉右衛門	武之 (花押)
嘉永四年辛亥九月廿七日	茨木龜治郎	保廣 (花押)
嘉永四年辛亥十月廿五日	小山勘藏	直之 (花押)
安政二年乙卯正月廿三日	杵本安次郎	綏之 (花押)
安政二年乙卯正月廿三日	井ノ口八郎助	茂生 (花押)
安政三年丙辰十二月七日	内藤孝介	元寛 (花押)
安政三年丙辰十二月七日	大塚安藏	光林 (花押)
安政三年丙辰十二月七日	笹田忠八郎	定純 (花押)
安政四年丁巳九月十四日	豊田儀助	憲時 (花押)
安政四年己歳九月廿六日	内藤源介	定依 (花押)
安政四丁巳年九月廿六日	永松吉三郎	重厚 (花押)
安政四丁巳九月廿六日	中村栄治郎	栄純 (花押)

京都観世会所藏「浅野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

文久二壬戌年二月十一日	前田幾三郎	(花押)
文久二壬戌年二月十一日	奥田廣之助	正毅(花押)
文久三癸亥年二月十九日	薬師川卯之介	良延(花押)
文久三癸亥年二月十九日	松本定次郎	<small>改名内藤源助</small> 德国(花押)
文久三癸亥年二月十九日	西川亀藏	慰棟(花押)
文久三癸亥年二月十九日	波久井久次郎	正能(花押)
文久三癸亥年二月十九日	山崎徳治郎	敏治(花押)
文久四甲子年二月廿四日	友田儀助	正繁(花押)
文久四甲子年二月廿四日	東野勘之助	延義(花押)
元治元年甲子六月廿六日	森栄太郎	延重(花押)
慶応三丁卯年三月四日	高谷宗七	元義(花押)
慶応三丁卯年三月四日	広瀬彦治郎	正次(花押)
慶応三丁卯年三月四日	服部平助	綏国(花押)
慶応三丁卯年四月廿六日	中村篤太郎	重盛(花押)
慶応三丁卯年四月廿六日	大橋新七郎	寿平(花押)
慶応四戊辰二月十四日	中村駒之助	信儀(花押)
慶応三年卯十二月廿日	小野勇次郎	道貞(花押)

慶応四戊辰二月十四日

細辻亀太郎

富穀 (花押)

明治元戊辰年霜月朔日

平田恒次郎

英誉 (花押)

明治元戊辰霜月朔日

中邑秀治郎

近淑 (花押)

明治貳己巳二月十八日

松居<sup>改</sup>大川 金七

康敏 (花押)

明治貳己巳二月十八日

上田孫三郎

貴忠 (花押)

明治貳己巳二月十八日

石卷武治郎

邦守 (花押)

明治貳己巳二月十八日

木村榮次郎

国安 (花押)

明治貳己巳二月十八日

小嶋弥三郎

福安 (花押)

明治二己巳年四月十七日

野間亀之助

祐基 (花押)

明治二己巳年霜月拾六日

岡本多助

(花押)

明治十三庚辰六月廿三日

佐野米二郎

心謹 (花押)

明治十三庚辰六月廿三日

大橋萬次郎

(花押)

明治十四辛巳五月一日

荒木重兵衛

正堅 (花押)

是より木拾巻名、武内弥兵衛取立門人

明治十五壬午一月廿二日

藤田六兵衛

明治拾五壬午七月廿八日

藤田留次郎

明治十五壬午八月四日

荒川宗助

義明

京都観世会所藏「浅野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

明治十五年壬午年八月六日	井上治郎兵衛	
明治十五年八月六日	外村駒之輔	
明治十五年八月六日	石田繁次郎	
明治十五年八月六日	下村恒次郎	持舜
明治十五年壬午八月六日	澤田作次郎	仁寿
明治十五年壬午八月六日	内藤友次郎	
明治十五年壬午八月六日	牧田久吉	
明治十五年壬午八月八日	森覺太郎	
明治十五年壬午八月九日	林卯一郎	
明治十拾五年壬午八月十日	中村茂三郎	
明治十五年壬午八月二十七日	中河熊治郎	
明治十有五年九月二日	佐輪永造	治信 (花押)
明治十五年午九月二日	伊藤正太郎	
明治十五年午九月一日	堤辨之助	
明治十五年午九月七日	追瀬弥三郎	
明治十五年午九月八日	松岡芳太郎	
明治十五年午十月十一日	黒川七郎兵衛	(花押)

明治拾五年十月十一日

鳥居治良助

明治拾五歲拾月廿一日

中森徳治郎

明次十五年十月廿六日

上田元七

明治拾五年十一月廿一日

山下半治郎

明治拾六年三月二日

加藤小兵衛

明治拾六年三月三日

奥村栄治郎

明治拾六年三月四日

三中西栄吉

明治拾六年三月五日

富田元治郎

明治十六年三月廿七日

大野弁吉

明治十六年三月廿七日

下村徳太郎

明治十六年三月廿八日

外村万之助

明治十六年六月十五日

瀧元多三郎

明治十六年六月十五日

佐々木栄七

明治十六年六月十五日

増田豊次郎

明次十六年七月七日

吉岡久次郎

明治十六年九月七日

井上新之助

明治十六年九月七日

近藤源三郎

善賢(花押)

京都観世会所藏「浅野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

明治十六年十月三日	大西清三郎
明治拾六年拾月三日	内藤新太郎
明治拾六年拾一月五日	田中鶴太郎
明治拾六年十一月五日	田中久吉
明治十七年壹月八日	加藤定吉
明治十七年三月五日	堀房治郎
明治十七年三月廿九日	寺阪益治郎
明治十七年四月廿一日	喜多川芳之助
明治十七年五月五日	西羽善次郎
明治十七年五月十八日	松本孝之助
明治十七年五月廿二日	寺田泰太郎
明治十七年五月廿二日	田中健次郎
明治十七年五月十八日	川北長三郎
明治十七年九月十日	駒井太助
明治十七年十一月廿七日	宋野竹次郎
明治十七年十一月廿七日	中西亀太郎
明治十七年十一月廿七日	藤田利助

好謙

明治十七年十一月廿七日

奥邨喜兵衛

明治十七年十一月廿七日

松本半兵衛

明治十八年二月十日

松居勇次朗

明治十八年壹月六日

澤村芳之助

明治十八年六月廿二日

山田吉兵衛

明治十八年六月廿二日

寺田辰之助

明治十九年一月十七日

三村宗二郎

〔第三卷〕

起請文前書之事

- 一 御謚御相伝忝奉存候。御秘伝之儀者不及申、借用仕候御本并写共親子兄弟ニ至迄他見仕間敷候。自然執心之輩有之候者、如此誓紙之一札を為仕候上、口伝本貸シ可申候。尤板行仕間敷候事。
- 一 ケ様之上者、他之師取不申、諸事御指図次第ニ仕、御為ニ成候事共毛頭疎意仕間鋪候。勿論我流立申間敷候事。

一 伝授仕候拍子方其外相伝仕候習事共、尤起請文之一札無之候而者伝授仕間敷候。若相統之者無之時者、右直シ申候本ニ封ラ付、其許江預ケ置可申事。

右三ヶ条於違背者、日本六十余州大小神祇我等宗躰并氏之神可蒙御罪者也。仍而神文如件。

中利助殿

明和六年己丑十一月六日	今井源兵衛	信剛(花押)
明和六年己丑十一月六日	井上仁兵衛	利学(花押)
明和六年己丑十一月六日	丹羽八兵衛	良孝(花押)
明和六年己丑十一月六日	谷村庄兵衛	満尊(花押)
明和六年己丑十一月六日	中井吉兵衛	重之(花押)
明和六年己丑十一月六日	三矢太兵衛	慧(花押)
明和六年己丑十一月八日	川畑伝右衛門	秀則(花押)
明和六年己丑十一月八日	藤川嘉七	利春(花押)
明和六年己丑十一月八日	中村弥兵衛	英□(花押)
明和六年己丑十一月八日	粟本治郎三良	言真(花押)
明和六年己丑十一月八日	中井作兵衛	政房(花押)
明和六年己丑十一月八日	青山小右衛門	重斯(花押)
明和六年己丑十一月八日	山下平兵衛	明雅(花押)
明和七庚寅歲十一月朔日	前川半兵衛	家政(花押)
明和七庚寅歲十一月朔日	堀長兵衛	隆永(花押)

明和七庚寅年十二月廿一日	吉崎新次郎	将衛(花押)
明和八辛卯年正月九日	飯田仁七郎	(花押)
明和八辛卯年五月十六日	前川八兵衛	
明和八辛卯年五月十六日	車持安兵衛	
明和八辛卯年十二月朔日	山本久七	
明和八辛卯年十二月朔日	大塚善右衛門	直殷(花押)
明和八辛卯年十二月朔日	永井伊三郎	
明和八辛卯年十二月朔日	田口彦兵衛	
明和八辛卯年十二月朔日	田口徳兵衛	
明和八辛卯年十二月朔日	八田清兵衛	
明和八辛卯年十二月朔日	中村善兵衛	
明和九壬辰年十月八日	千代善助	福□(花押)
明和九壬辰年十月八日	上田善治郎	尚美(花押)
安永元壬辰年十二月十八日	林徳兵衛	一守(花押)
安永元壬辰年十二月十八日	杵田萬助	
安永二癸巳年四月廿四日	松本六郎兵衛	延時
安永二癸巳年十月廿一日	大塚儀助	

京都觀世会所藏「淺野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

安永二癸巳年十月廿一日	畑伊兵衛	守 (花押)
安永二癸巳年十月廿一日	長谷川吉兵衛	利 (花押)
安永三甲午歲十月十日	森嘉兵衛	
安永三甲午年十一月廿二日	福井忠兵衛	
安永三甲午年十一月廿二日	須田作兵衛	
安永三甲午年十一月廿二日	山田太兵衛	
安永三甲午年十一月廿二日	廣瀬安兵衛	
安永四乙未年十一月十四日	田中喜兵衛	常理 (花押)
安永四乙未年十一月十四日	柴田兵助	
安永四乙未年十一月十四日	小林金兵衛	
安永四乙未年十一月十四日	古川又兵衛	
安永四乙未年十一月十四日	上山利八	
安永四乙未歲十一月十四日	本康九郎兵衛	岑福 (花押)
安永四乙未年十一月十四日	菱田与兵衛	
安永六丁酉年十二月四日	近藤喜右衛門	貞幹 (花押)
安永七戊戌年六月十一日	北村四郎兵衛	重友 (花押)
安永七戊戌年閏七月三日	山本治兵衛	

安永九庚子年二月廿三日	藤井孝助	業建（花押）
天明元年辛丑年十一月廿日	河畑秀治郎	信安（花押）
天明元年辛丑年十一月廿日	小濱作治郎	
天明元年辛丑年十一月廿日	林伊助	
天明元年辛丑年十一月廿日	堀口長三郎	
天明元年辛丑年十一月廿日	淵田清藏	
天明元年辛丑歲十一月廿日	澤村佐兵衛	
天明元年辛丑年十一月廿日	中村武兵衛	秀虎（花押）
天明元年辛丑歲十一月廿日	速水次兵衛	
天明二壬寅歲十一月十四日	篠村武兵衛	
天明四甲辰年十一月廿五日	田中孫兵衛	光平（花押）
天明四甲辰年十一月廿五日	永井忠治郎	
天明四甲辰年十一月廿五日	山口新六	
天明四甲辰年十一月廿五日	田井勝祐	政芳（花押）
天明五乙巳年四月四日	吳文宇八	
天明五乙巳年十一月六日	熊田市右衛門	定賢（花押）
	山下治郎兵衛	

天明五乙巳歲十一月廿八日

近藤喜代三郎

義為

天明七丁未年十月廿七日

中村弥兵衛

保教（花押）

〔第四卷〕

誓神文

一 御所持之謳本并秘書口伝等御相伝之赴、毛頭他見他言仕間敷候。然上者御如在ニ不存相勤可申候。尤諷止メ申間鋪候事。

一 難遁仁從所望相伝仕候ハ、如此神文ヲ取相伝可仕候事。

一 我流を立、亦者他流を專一ニ仕間敷候。尤他之師取申間敷候。万一左様之義候ハ、御了簡を以如何様とも可仕候事。

右三ヶ条之趣、於相背者、日本大小之神祇可蒙御罰者也。依而起請文如件。

文久元年酉八月

岩成茂兵衛殿事

禪門夢樂殿

△吉田正兵衛

正次（花押）

△橋本伝左衛門

直敬（花押）

明治貳六月

明治式五月

喜多邑五兵衛	政之(花押)
隅田亀治郎	重永(花押)
福岡彦藏	廣孝(花押)
森脇達之祐	辰光(花押)
寺村力三郎	重孝(花押)
万木弥三郎	帷和(花押)
善月仁三郎	弁慶(花押)
福岡彦左衛門	逸廣(花押)
森新太郎	元利(花押)
木村虎三郎	則次(花押)
富野仙次郎	正長(花押)
福永幸三郎	康光(花押)
藤江徳治郎	義輝(花押)
鎌田吉藏	義次(花押)
池田末太郎	春崇(花押)
松田橘次良	正敬(花押)
中村真太良	信甫(花押)

明治七戌七月  
明治元歳

山中録三郎

正一（花押）

藤岡政治郎

尚興（花押）

乾平五郎

島田藤三郎

永同（花押）

中村寅之助

信連（花押）

藤岡益太郎

小野勇三郎

通興

谷口喜三郎

鈴木佐兵衛

重明（花押）

石橋為造

誠定（花押）

多川鉄次郎

重一（花押）

△下間源太郎

源宗清（花押）

△安田長門様

源頼矩（花押）

尾川又七郎

越智重秀（花押）

岡村善右衛門

貞堅（花押）

福嶋万助

勝成（花押）

高橋芳太郎

清利

明治六年

三雲久三郎

松永徳之助

隅田忠三郎

柴田友七

隅田幸太郎

清水莊次郎

向井武次郎

寺井松之介

長澤華雪

吉村清次郎

中瀬利兵衛

岡部虎之祐

佐藤房治郎

今井辨治郎

△上川太八

都倉文次郎

横井亀次郎

(花押)

源延元(花押)

静修(花押)

義苗(花押)

〔第五卷〕

起請文前書之事

一 御謠御相伝忝奉存候。御秘伝之儀者不及申、借用仕候御本并写共親子兄弟ニ至迄他見仕間敷候。自然執心之輩有之者、如此誓紙之一札之為仕候上、口伝本貸シ可申候。尤板行仕間敷候事。

一 ケ様之上者他之師取不申、諸事御指図次第ニ仕、御為ニ成候事共毛頭諫意仕間敷候。勿論我流立申間敷候事。

一 伝授仕候拍子方其外相伝仕候習事共、尤起請文之一札無之候而者伝授仕間敷候。若シ相統之者無之時者、右

直シ申本ニ我等封ヲ附其許江預置可申事。

右三ヶ条於違背者日本六十余州大小神祇我等宗躰并氏之神可蒙御罰者也。依而神文如件。

明治十有九年

長澤勝治郎 勝延（花押）

増山仙太郎

下折信助 高之（花押）

廣幡家 葛西尋之介 寿濤（花押）

長谷川幸太良

浅野常次郎殿

明治拾八年拾二月

秦与三郎

明治拾八年拾二月

团永一郎

明治拾八年拾二月

片山源治郎

同

山中茂三郎

同

佐野重太郎

同

田中弥三郎

同

岡邑卯三郎

同 十九年二月

橋永覚之助

明治十九年十一月一日

大井龍造

明治十九年十一月一日

木村米次郎

明治十九歲十壹月

高田弥兵衛

明治十九年十一月

西内弥太郎

明治拾九年十一月一日

山本孝之助

明治廿年十一月一日

白井助次郎

浅野太左衛門殿

京都觀世会所藏「淺野太左衛門家門人帳」解題と翻刻

明治二十拾二年一月一日	澤廣吉
明治廿二年一月一日	森井寅次郎
明治廿二年拾一月九日	谷井友次郎
同	梶谷新助
同	田中勇吉
同年 同月	鈴木伊兵衛
同	中村定次郎
明治貳拾三年二月五日	中村滝三郎
明治貳拾四年四月一日	高田金藏
明治廿四年五月十日	寺井治三郎
明治廿四年八月	人見常五郎
明治廿四年第八月	森次一郎
明治廿五年第七月	宮井由之助
明治廿五年七月	田中常次郎
明治廿七年三月	山下新次郎
明治廿七年三月	黒田庄太郎
明治廿七年三月	蜂須賀正次郎

明治貳拾八年六月	石野庄一郎
明治廿八年六月	川原林半四郎
明治廿八年十二月	梅原米三郎
明治廿九年十一月	杵山次三郎
明治参拾年一月	木村玄三郎
同	石野弥四郎
明治三十年六月	寺田仁三郎
明治三拾年四月	芝竹次郎
明治参拾参年十月	富田清之助
同	松尾治三郎
同	岡村市三郎
明治三拾四年三月	吉田吉次郎
同	中山嘉平
同	河村源次郎
明治参拾五年拾月	市野栄次郎
同	富田光造

〔第六卷〕

芳名録

今般私儀御社へ入社候。左ニ記名候也。

昭和廿一年文月七日

浅野匡宣殿

橋園社御中

昭和廿一年四月

寺本嘉男

梅村信夫

昌滋

ゑい

道子

恭子

中村統太郎

藤田三郎右衛門

奥川省一

南駿雄

尾上昌夫

伊藤定吉

松本恒郎

井狩平九郎

西昭蔵

真崎資郎

五十子新治

田中勘之助

正一

富田隆三

内池敏子

野勢道子

伊藤ゑい

福地千賀子

福地美紗子

安部□吉

西川昭二

吉村利市郎

奥川讓二

服部順一

高畑光雄

真崎光晴

昭和廿一年九月四日

梅村信夫氏紹介

大津市枳屋町 滋賀貨物運搬会社中

同九月拾四日

佐々木從叙氏紹介

京都市松原烏丸西 青鱗洞会員中

後藤徳太朗

福地久美子

山本正太郎 邦雄改

京都 永井東三郎 外四名

添書

先師太左衛門没後謠曲口伝相統致者無之期、道益廢棄ニ傾キ、此凶ニ荏苒日ヲ送り、顧念致居候処、絲恩之社中股肱之杉山氏一大決心ヲ起シ、以而橘枝社之再創立ニ努力被致候ニ付、嗣子誠ニ窮達之思、其意ヲ慮リ此ニ誓約

之卷ヲ御頼御仕候様申候二付、旧誼之諸彦陸統御賛同之榮ヲ賜、御入盟アラム事

大正貳年七月四日

浅野豹斎

杉山治三郎殿

付記 小稿は、JSPS 科学研究費補助金（課題番号17K02463）による成果の一部である。

## 注

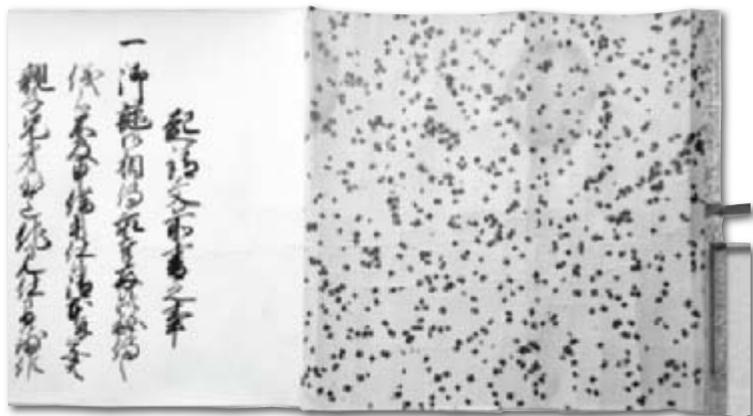
① 京都観世会浅野文庫整理番号九九。『謡の家の軌跡 浅野太左衛門家基礎資料集成』（二〇二二年三月、和泉書院刊）二九〇頁、拙稿解題参照。

② 京都観世会浅野文庫整理番号四五。注①前掲書二四一頁、拙稿解題参照。拙稿「浅野太左衛門家旧蔵『他郷詛盟順簿』解題と翻刻並びに影印」（『成城国文学論集』第四二輯、二〇二〇年）に翻刻。

③ 拙稿「京観世井上次郎右衛門家門人帳」解題と翻刻 附索引」（『山手日文論攷』二十六号、二〇〇七年）、「京観世井上次郎右衛門家門人帳（田中家引継分）解題と翻刻 附索引」（『神女大國文』十九号、二〇〇八年）。井上次郎右衛門は治郎右衛門の表記も併用してみられるが、以下、井上次郎右衛門家と記す。

④ 拙稿「京観世蘭久右衛門家門人帳 解題と翻刻 附索引」（『神女大國文』十八号、二〇〇七年）。なお、近代、林家、井上家、岩井家、浅野家、蘭家の五家を京観世五軒家、各家の当主五人（林喜右衛門、井上次郎右衛門、岩井七郎右衛門、浅野太左衛門、蘭久右衛門）を「五エモン」とする呼称があり、前稿では蘭久右衛門家門人帳としたが、久右衛門を名乗ったのは近代の当主履吉のみで、それ以前は久兵衛を襲名しており、蘭久兵衛家と修正する。

⑤ 拙稿「京観世岩井家の明和本批判——岩井七郎右衛門家旧蔵文書から——」（『能と狂言』六号、二〇〇八年）







# 整神文

一清而持く速く其故  
 以傳者沙知楚領先預  
 化更使在任万乃の務  
 清心在在存相親下  
 風止千回油月事



一禮道仁儀不望於何任  
 心世神文而相傳之任可  
 一我流を立亦其他流を為一  
 任万乃乃古也之肝而事流  
 可一長極長はし清子等  
 成心何極とも七任は事一  
 右之際終於相肖者  
 日并久心之神道可氣  
 門前志也優起清父心仲  
 父久九年  
 自八月

若成茂三活及事  
 福手忠也  
 長田心清  
 五段五  
 橋本信也  
 五段五  
 寺之色中  
 五段五  
 湯田忠治郎  
 京永  
 福岡天彦  
 康永  
 森脇達雄



紀誦文讀書之事

一御誦御相傳奏奉存儀御秘傳之儀有本及申借用仕儀御本寫天親子兄弟等至追他其任間教之自然執心之輩有者如地極遠之一札之為仕儀上口傳本貸可申儀尤極行任間教儀事

一本校之上看他之師取申諸事御指圖次有任御為三成事云先頭諫意任間教義加論我流立申間教儀事

一傳受仕儀拍子方共外相傳仕儀

習事共尤起讀文之札分之處有傳受任間教義者相續之者有之時有右直申奉禁封附其許江預置可申事

右三條於遠背有日本六千洲大小神祇祭宗終共我之神可奉御罰者也依神文如件

明治十年九年

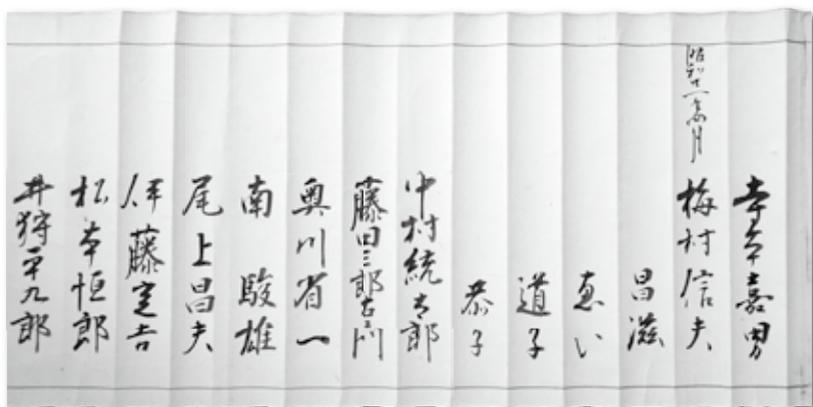
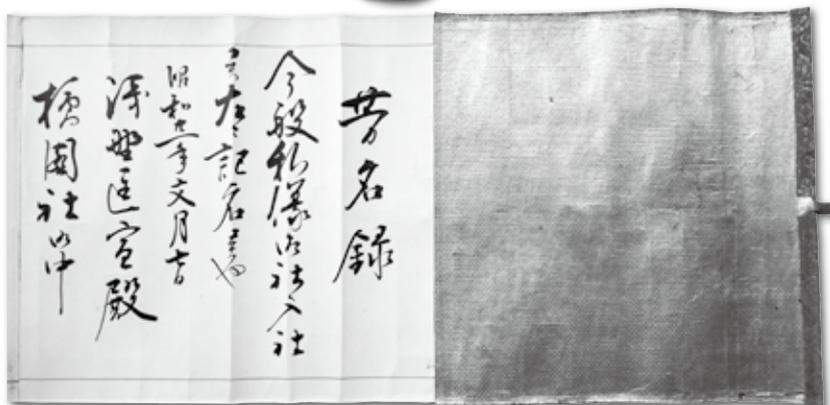
淺野常一郎殿

明治十年十二月

恭与三郎

明治拾八年拾二月

團永一郎



寺本嘉男

昭和五年四月 梅村信夫

昌滋

五い

道子

恭子

中村統太郎

藤田三郎吉門

奥川省一

南 駿雄

尾上昌夫

平藤定吉

松本恒郎

井将平九郎